

防犯 最前線

若年層取り込んだ活動に期待



防犯を呼び掛けるメンバー＝梅森台で

結成16年目 梅森台防犯パトロール隊

「ただいま防犯パトロール中です」初夏の夕暮れ、国道153号線を挟んで広がる梅森台の閑静な住宅街にパトロール隊メンバーの音が響く。

「泥棒が逃げやすい抜け道やインターもあって狙われやすい環境なので、絶えず目を光らせています」隊長の溝秀能さん(42)は、昨年度地元で自治会長を務めた経験を買われ、4月からリーダーに抜擢された。若い力に期待が寄せられている。

同パトロール隊は、15年以上前、西学区で空き巣や車上狙いが多発したことを受けて、平成13年2月に住民有志によって立ち上げられた。当時、自主防犯活動団体は県内でも珍しく市内で初。「自分たちが住む町は自分たちで守る」を合言葉に、地域・警察・行政のスクラム強化の先駆け地域として注目を集めた。

メンバー数は21人で、組長にも参加を促している。毎月ゼロの日の夜、公民館に集まり、約3キロの

コースを50分ほどかけてゆっくりと歩く。

少人数で効率良く回ろうと毎回ルートを変え、途中で合流しても止めても自由な「完全自主防犯パトロール」が売り文句だ。

その甲斐あって、防犯意識は根付いている。メンバーの声や拍手木の音を聞き窓を開けて手を振る人や、「お疲れ様」と励ましてくれる人も増え、安全安心の輪が広がっている。

夫婦で参加して6年になる大江章三さん(73)、美智子さん(68)は、退職をきっかけに仲間入りした。「歩いてみて初めて気付くこと

もあって楽しく活動に参加しています」と笑顔で話す。

長年活動を続けるベテラン勢に若い人が加わることで、若年層を取り込んだコミュニケーションづくりにも弾みがつきそうだ。

夏休みには子ども会との合同パトロールを計画。溝さんは「自分と同じ子育て世代の親同士が積極的に声を掛け合うことで、多くの皆さんに地域への関心を持っていただきたい」と思い描く。

そして、メンバーは願いを語る。「空き巣が発生した話を聞くと本当に悔しい。ずっと住み続けるので犯罪のない町にしたいよね」

自主防犯29団体が 意見交換



今年度の自主防犯活動団体連絡協議会が5月30日に市役所で開かれ、地域の代表者と市職員が出席して意見交換しました＝写真。

6月に開かれる安全安心推進大会について協議したほか、市が愛知淑徳大学の協力を得て作製した防犯・交通安全の音声テープが配布されました。

自主防犯では、4月から岩藤町が活動を開始。市内の加入数は29団体に増え、愛知学院大学も今年度中の設立を目指して準備を進めています。

*今号から安全安心を身近に伝える企画「防犯最前線」を連載します。地域を守る自主防犯活動団体にスポットを当てます。